

岡崎市議会議長 様

支出番号	8
------	---

会派名 自民清風会
代表者名 中根 武彦

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和6年3月7日提出

活動年月日	令和5年7月11日（火）～14日（金）	
氏名	加藤義幸 鈴木静男 荻野秀範	
用務先 及び 内 容	1 7月11日	用務先 山形県 山形市
		内 容 山形城跡の国史跡指定後の整備について
	2 7月12日	用務先 山形県 新庄市
		内 容 体育館・市民球場・陸上競技場等の活用法について
	3 7月13日	用務先 福島県 福島市
		内 容 「道の駅ふくしま」について
	4 7月14日	用務先 岩手県 一関市
		内 容 一関清掃センターリサイクルプラザについて
備 考		

政策調査報告書

報告者：鈴木 静男

視 察 日	令和5年7月11日(火)
視 察 内 容	山形城跡の国史跡指定後の整備について
視 察 者	加藤 義幸、荻野 秀範、鈴木 静男

＜山形市の概要＞

山形盆地の南部3分の1ほどを占め、盆地の東南部に位置する扇状地の上に市街地が立地している。盆地中央部である市の北、北西方向は広く平地が続く、広大な田園となっている。市の東部は奥羽山脈による山岳地帯、南西部は丘陵が占めている。

面積：381.58 km²

人口：243,507人



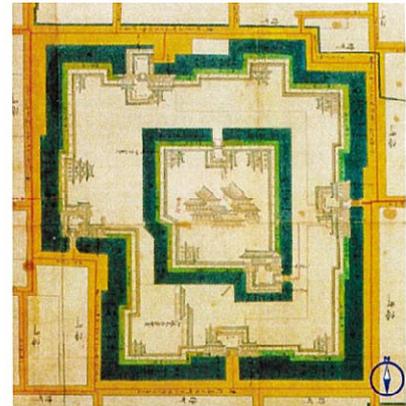
＜山形城址の概要について＞

山形城は、別名は霞城（かじょう）、霞ヶ城（かすみがじょう）と呼ばれる。

また、吉字城とも呼ばれた。国の史跡に指定されている。

城郭構造の基礎は、最上義光の時代につくられ、鳥居忠政の時代に現在の形に整えられた。江戸時代には山形藩の政庁が置かれた。現在は、武家屋敷群のあった三の丸が市街地化しているが、本丸、二の丸跡が霞城公園として残されている。

霞城公園はかつて運動公園として整備されたため公園内には運動施設が幾つか残っている。現在、整備方針が変わり史跡公園とすることを目標にしているので残っている施設も将来的に移転される予定。



山形市は、2033年をめどに本丸全体の発掘調査を完了させるとともに、本丸枡形門の木造復元を完了することを計画している。

令和5年（2023年）現在、本丸御殿、本丸一文字門櫓等の木造復元計画がある。本丸は一文字門及び本丸御殿等の古写真・図面などの史料が発見されていないことにより、大型建築物の木造復元のめどは立っていないが、本丸大手門の高麗門及び土塀は時代考証に基づき木造復元が行われている。

平成25年（2013年）の発掘調査は本丸西側濠の遺構が中心となり、本丸濠南西部に関しては本丸土塁構築が出来る状態となっている。同年の発掘調査では三の丸跡から奈良・平安時代のものである竪穴建物跡6棟が発見され、城下町は古代から存在した集落を基盤として形成された。



山形城本丸御殿CG

＜デジタル技術を活用した復元事業＞

現在、山形城の建造物等は史料が不足しており、二ノ丸東大手門、本丸一文字門以外は現地に復元することが出来ていない。そこで、山形城本丸御殿の魅力を幅広く発信させる目的でCGによる復元に至った。今後も二ノ丸、三ノ丸をCGで復元し、AR・VRといった技術を用いて活用していく予定。

<観光客等の声について>

以下3点の主な意見

- ・本丸御殿や櫓等の建造物を早く復元してほしい。
- ・賑わいが出るような整備をしてほしい。
- ・桜の保全に努め、桜の名所を守ってほしい。

<現在の課題について>

- ① 史料が不足しており建造物の復元整備が進められない。
- ② 整備年代を江戸中期に設定しているが、本丸御殿跡に整備年代と異なる最上氏の遺構が出てきているため、整備方針の検討に時間を要している。
- ③ ガイダンス施設の予定地がまだ確定していない。

<今後の展開について>

- ・資料提供の呼びかけを引き続き行う。
- ・整備方針やガイダンス施設建設について文化庁、検討会委員の協議を進める。
- ・令和6年度よりVR・ARアプリの供用を開始する。



[感想・岡崎市への反映]

山形城の復元は観光客より本丸御殿や櫓などの建造物を早く復元をしてほしい意見があるが、公園であり史跡でもある山形城においては文化庁等との協議調整や史料不足で建造物の復元整備が進められていない実情を知った。本市の岡崎城においても今後の数十年後には建替えも検討される事は間違いないことである。復元資料収集を開始することを提案したい。また、建替え議論を進めるにはCG作成を行い、市民などとの事前検討等の検討資料としてはと考える。

山形市としては、山形城の建造物の復元が出来ないことからAR/VRアプリの活用により、歩きながらも観られる山形城本丸御殿等の供用を開始するとのことである。どのようなサービスになるか楽しみであり本市においても様々な観光施設等で活用ができ、新たな観光客や交流人口の増加に繋がるのでは思い、山形市の動向に注目したい。

[同行者の所感]

- ・山形城跡は、2033年頃をめどに本丸全体の発掘調査を終えるとしている。それに合わせて本丸御殿等の復元を目指しているが、史料不足により、なかなか計画が進まないのが現状である。

この山形城址公園は桜の名所でもあるためさくらの保全にも取り組まなければならない。このことは、岡崎城跡・岡崎公園の課題とよく似ている。史実に忠実になることは大事であるが、賑わいを創出できる、市民にも観光客にも愛される整備が望まれる。これは、岡崎市においても同じである。

- ・山形城跡は、近世初期の面影をとどめた全国有数規模の近世城郭である。どこの自治体も近年の市街化の波により急速に建物や地形が失われている。山形市が現在の課題として捉えているのは、復元に関する史料の不足に伴う建造物の復元整備が進められない中、本丸御殿の魅力を拡幅発信するためにCGで復元し、AR・VRといった技術を用いて復元事業を行っている。本市においても、歴史的な資料を集め史料に基づき岡崎公園をイミテーションではなく後世に伝えることのできる「本物の復元整備」を進めるべきであると考え。

政務活動視察報告書

報告者：荻野秀範

視察日	令和5年7月12日
視察内容	体育館・市民球場・陸上競技場等の活用法について
視察者	加藤義幸・鈴木静男・荻野秀範

【新庄市の概要】

新庄市は、日本三大急流の一つとして知られる最上川が市域南部を流れ山形県の北部に位置し、平成11年には県北部の長年の夢であった山形新幹線の新庄駅が設置され「新庄発東京行き」が実現した。

さらに、東北中央自動車道が開通し、市域に3か所のインターチェンジが設置され交通の基本となっており、最上地域の中心市である。

市域面積：222,85 km² 人口：34,524人（令和3年4月1日現在）



【体育施設の活用方法について】

体育施設（体育館・野球場・陸上競技場・市民プール・スキー場等）は11か所設置されており、廃校を活用したスポーツ施設（2か所）など有効に公共施設を利用している。

活用方法

- ① 全国の小中学生利用料無料、高校生半額……ジュニア世代の運動機会の創出
- ② 総合型地域スポーツクラブ（高齢者）の活動……利用料免除（高齢者福祉）
- ③ 指定管理者制度を採用……新庄市スポーツ協会

現在の課題

- ・どの施設も建設から期間が経過しているため、維持管理経費が高んでいる。
- ・施設更新（大規模改修）には多額の費用が必要となる。

今後の展開

- ・今後、廃校など建設物が取り壊しとなった公共施設跡地は、多目的に使用できるように屋外運動場を整備（芝生）を予定している。

《意見・所感等》

ジュニア世代の育成及び機会の創出ということから、市内の小中学生のみでなく全国の小中学生を対象として利用料を無料としている事は、他自治体では珍しい制度であると思う。

本市は「こどもまんなか応援サポーター」として宣言している状況の中、子どもたちのために何がもっとも良いことかを常に考え、子どもたちが健やかで幸せに成長できるような社会を実現するためにも、全国の子どもたちを対象に施設利用料の無料化を検討する必要があると考える。

【同行者の所感】

・新庄市は、陸上競技場、体育館をはじめ、11の運動施設を有しており、小中学生は利用料無料、高校生は半額と利用しやすくしており、競技人口の増加にも一役買っている。ただ、どの施設も老朽化が進んでおり、今後は、統合も含めた大規模改修が必要となっており、市民の意見を盛り込んだ改修等が望ましい。

本市においても、こどもまんなか社会が定着していく中で、部活動の地域移行も今後進むときに、施設の利用料も含めた、こどもをはじめ誰もが使い勝手のよい施設を作り、改修を図り運用すべきと考える。

・新庄市の運動施設はどの施設も老朽化が著しく、施設の更新や大規模改修が市民より寄せられており、特にトイレの洋式化の要望がある。

しかしながら、各施設の平成30年度から令和4年度までの利用実績をみると新型コロナ感染ピークの令和2年度前後に少し落ち込む施設もあるが、ほぼ一定の利用がされていて驚いた。基本的には廉価な利用料設定となっているが、特徴なのは、小中学生の利用料無料、高校生の利用料半額であり、それも新庄市以外も対象である点だ。思いきった施策であるが、小中高の児童・生徒が気楽に利用できる環境を作ることによってスポーツの普及・振興が図られている。本市もまずは小中学生の利用料無料を、期間を設定して実施してみる等、多様な試みを検討してはと考える。

政務活動視察報告書

報告者：荻野秀範

視察日	令和5年7月13日
視察内容	福島県福島市：「道の駅ふくしま」について
視察者	加藤義幸・鈴木静男・荻野秀範

【福島市の概要】

福島市は福島県の北部に位置し、福島県庁の所在地であり、中核市に指定され、古くは養蚕と阿武隈川の舟運で栄えた城下町

阿武隈高原に囲まれた福島盆地は果物の生産が盛んで、市域西部を通過するフルーツライン沿いには観光農園や直売所が点在しており、県内第1位の農業産出額で特に「桃」は日本有数の収穫量を誇っている。

観光では飯坂温泉・土湯温泉・高湯温泉の福島三名泉を擁している。

人口：268千人 面積：767km²

【整備事業の背景と概要】

市域には東北縦貫自動車道・東北中央自動車道などの幹線道路が整備され、「地域活性化IC」として福島大笹生ICが地元が主体となって整備された。

これら社会情勢の変化に伴い地域振興施設として「道の駅」整備が進められた。

施設の概要としては、道の駅本体（2,262m²）・屋内子ども遊び場（500m²木造平屋建て）防災倉庫（150m²）・倉庫（70m²鉄筋造り）で構成され、その他に、多目的広場（2,136m²）・ドックラン（480m²）・駐車場（317台分）で敷地面積は27,562m²となっている。

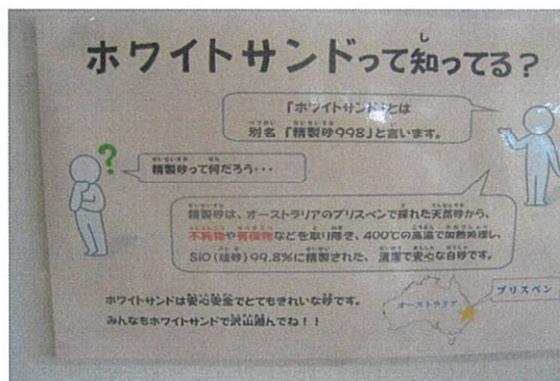
これらの施設は、道路管理者（福島県）が管理する「トイレ・道路情報施設」の区域と福島市が管理する「地域振興施設」となっており、一体整備がされている。

【施設の特徴と運営方針】

県が管理する「道の駅」の基本機能は基本的には24時間利用可能（インフォメーションを除く）で運営されている。

市が管理する「道の駅」は直売所・レストラン・フードコート・レンタサイクル・ドックラン・屋内子ども遊び場となっており、「周遊手形縁（えにし）」の制度を導入し、会員・クーポン・スタンプラリーなどを展開している。

レンタサイクルでは電動アシスト機能付自転車を採用し、2時間300円・ドックランは、天然芝・シャワーが整備され無料。



屋内子ども遊び場は、夏涼しく、冬温かい、木質感あふれる遊び場となっており、手につきにくく、抗菌効果の高いホワイトサンドを採用している。

防災を意識した道の駅には耐震性貯水槽が設置されており、4400人3日間の飲料水を確保している。

運営方針としては、指定管理者制度を導入しているが、屋内子ども遊び場以外は指定管理料ゼロとしている。

また、人材は100%地元採用とし、生産者協議会を組織化している。

民間の経営ノウハウを活用し、「売ればよい」ではなく「いかに地域のものを売っていくか」を積極的に行っている。

【実績 令和4年オープン】

来場者総数 167万人 売上額 12億6千万円

屋内子ども遊び場 5万6千人

《意見・所感等》

平成23年に発生した東日本大震災の影響もあり、この事業が計画されたとの説明もあった「道の駅」であり、多くの機能と大規模な面積を要している。

高速道路のインターチェンジと直結しており利用者が非常に多いと感じた。

指定管理料ゼロも納得できる場所である。

本市も公共施設で指定管理者制度を採用している施設は、指定管理料ゼロとなるように検討する必要がある。

【同行者の所感】

・道の駅ふくしまは、東西南北に高速道路が走り、インターチェンジと直結しており市民はじめ多くの方が利用しており、常に賑わいを創出している。これには、仕掛けもあり、レンタサイクル、ドッグラン、ももRabiキッズパーク（屋内こども遊び場）もあり、幅広い方々が訪れており、賑わいに拍車をかけている。

また、防災、環境にも配慮されており、ただの商業施設にとどまっていないところが良い。東部における商業施設等の開発にも大いに役立てるべきと考える。

・「道の駅ふくしま」は約28,000㎡の敷地に道の駅本体、屋内こども遊び場、防災倉庫、倉庫、多目的広場、ドッグラン、レンタルサイクル等を備えた最新施設である。中でも、屋内こども遊び場「ももRabiキッズパーク」は500㎡の広さで福島県産木材を使用した平屋造りの温かみのある施設であった。また、多くの木製遊具があり木に触れて感じる木育の場にもなっている。本市もこの様な屋内こども遊び場を整備し、子育てしやすい環境と木育環境の整備を行うべきである。

政務活動視察報告書

報告者：加藤 義幸

視察日	令和5年7月14日
視察内容	一関清掃センターリサイクルプラザについて
視察者	加藤義幸・鈴木静男・荻野秀範

《一関市の概要》

岩手県の最南端にあり、南は宮城県、西は秋田県と接し、盛岡市と仙台市の中間に位置している。県内第2の都市で面積も2番目に広い。岩手県南部と宮城県を繋ぐ拠点として、東北新幹線・一ノ関駅や東北自動車道・一関ICが所在している。農業産出額は県内一で、養豚やブロイラー飼育では全国有数を誇る。骨寺村荘園遺跡や一関温泉郷などの観光資源を持ち、世界文化遺産の平泉にも近接している。



面積：1,256.42 km²、人口108,587人（令和5年4月1日現在）

《リサイクルプラザ》

☆平成14年11月竣工

☆処理能力：33 t/日（5H/日）

- ① 不燃ごみ・粗大ごみ：27.8 t/日
- ② 缶：1.6 t/日
- ③ ペットボトル：0.5 t/日
- ④ びん：2.5 t/日
- ⑤ プラスチック製容器包装：0.6 t/日
- ⑥ 発泡スチロール・トレイ：0.05 t/日

☆施設整備の背景、経緯

一関地区広域行政組合の構成市である旧一関市では、市民から排出された缶、びん等を選別、減容等の処理後、有価物として独自に処理を行っていた。平成7年6月に「容器包装リサイクル法」が制定されたことから、組合においても構成市町全体で分別収集を徹底し、廃棄物の減量化を図るとともに、資源の有効利用を図るため、平成12年6月にリサイクルプラザ建設を着工、平成15年4月から本格稼働を開始。特長として①メンテナンス性を考慮した、余裕のある設備配置②熟練作業による、精度の高い選別③体感型の環境学習スペースがある。環境学習に関する取組は小学生を中心に積極的に展開している。

☆施設利用実績

・再生品抽選販売実績

	出品点数	申込数	販売点数	販売金額
平成30年度	730点	3,007件	594点	434,200円
令和元年度	750点	3,489件	633点	513,400円
令和2年度	750点	4,181件	626点	362,100円
令和3年度	750点	4,439件	655点	406,500円
令和4年度	750点	3,977件	647点	405,650円

・リサイクルプラザ工芸教室利用実績

	件数	人数
平成 30 年度	73 件	844 人
令和元年度	64 件	773 人
令和 2 年度	42 件	368 人
令和 3 年度	81 件	623 人
令和 4 年度	70 件	495 人

☆課題・今後の展開

このリサイクル施設は、稼働開始から 20 年以上経過しており、老朽化に伴う大規模改修が必要。また、令和 4 年 4 月 1 日施行の「プラスチック資源循環法」により、自治体に対してプラスチック資源の分別収集及びリサイクルに必要な措置が求められていることから、資源循環の取り組みを今以上に推進するため、新たなリサイクル施設の整備を進めている。



《意見・所感等》

ごみの分別方法について、少なからず不満を持っている住民もいるようだ。やはり、分別しやすい区分にすることが妥当とも考える。

リサイクル施設の取り組みとしては、自転車の修理販売のみならず、住民の持ち込んだあらゆるリユース品のあっせん販売をされていてごみの減量に取り組んでいることは素晴らしい。販売実績も常に 80% を超えており、リユースがある程度浸透しているようだ。この先、新リサイクル施設が建設されるが、より市民に利用されるような施設運営をすれば、よりごみの減量に寄与出来るであろう。本市においても市民目線に立ち楽しみながらごみ減量に取り組むべきと考える。

【同行者の所感】

・分別収集を徹底して廃棄物の減量化を目指した。また、資源の有効活用を図るために建設された。本施設では、資源に生まれ変わるための施設として、知って・学んで・体験する施設見学を行う。ガラス工芸、紙すき、裂き織り、エコキャンドル等必要が無くなったものを再利用する方法を提案している。他にも、再生品の抽選販売も行い販売金額も約 40 万円/年で実績も上げ、市民にリユース意識の向上醸成に繋がり素晴らしい事業であると感じた。

本市もごみ減量に繋がるリサイクル意識の向上とリユース意識の向上に繋がるリユース事業者との提携にとどまらず、クリーンセンターに持ち込まれる廃棄物のリユースの取り組みを行うべきである。

・リサイクル施設は自転車や家具など多くの品目を修理しリユースしている。リユース事業はごみ減量のみならず、ものを大事にすると共に家計負担軽減の一助になり、本市としても大いに推進する必要があると考える。